

天声人語

元素周期表の113番にニホウムが登録されたのは5年前の11月のこと。実は100年以上も前、似て非なるニッポニウムが化学界を沸かせたことがある。いったん周期表に載りなが

ら露と消えた新元素だった▼元素ハンターの名は小川正孝。幕末に生まれ、愛媛県で育ち、東北帝大の総長を務めた。1904年ごろ、留学先の英国で、鉱物から未知の化合物を見つける。ニッポニウムと名付け、空白だった原子番号43番を埋める新元素と発表した▼しかし他の学者が追試しても存在を確かめられない。20年後、ドイツの化学者が性質の似た別元素を発見し、レニウムと命名。小川が発見していたのはこちらだった。43番に泣かされたのは小川だけではない。ペロピウム、イルメニウムといった新元素が次々に提唱されては消えた▼世界で最も早くレニウムに到達したという小川の業績が確かめられたのは1996年。孫弟子にあたる東北大の研究者が、小川の残した研究資料などから解き明かした▼近年、英王立化学協会がレニウムの解説欄で小川に言及するなど国際的にも再評価が進む。「地元でもようやく真価が知られるようになりました」。愛媛県総合科学博物館学芸員の久松洋二さん(50)は喜ぶ▼「水兵リーベ僕の舟……」。周期表をそんな語呂合わせで覚えたのは中学時代だったか。退屈な棒暗記には閉口したが、ニッポニウムをめぐる失意と復権の跡を追って、手もとの周期表が格闘技の舞台のように熱く輝いて見えた。